

深刻化する気候変動や貧困問題、エネルギーや食糧問題など、世界が抱えるさまざまな問題は、いまや1つの国や企業では対処できない課題です。そこで世界が同じ方向に向かい、課題解決とよりよい未来を目指すために採択されたのがSDGsです。今、世界中に広がりを見せるSDGsの動きや取り組みをシリーズで紹介していきます。

持続可能な未来のための
達成すべきゴール

SDGsは「サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月に行われた国連サミットで採択された世界共通の目標です。SDGsには、2030年までに世界が達成すべき17のゴールと、達成に向けた具体的な169のターゲットが示され、その内容は貧困問題やジェンダー平等、持続可能な経済成長やイノベーション、環境問題など多岐に渡ります。経済・環境・社会と幅広い分野の包括的な課題解決を通して、すべての人が豊かに暮らし続けていける未来を次世代へつなぐことを目指しています。

これまで日本では、企業がボランテアや寄付によって利益の一部を社会に還元するCSR(企業の社会的責任)が盛んに行われていました。しかし現在は、本業にSDGsの取り組みを取り入れ、新たな技術やノウハウで課題解決とビジネス拡大を両立させるという新たな仕組みが、企業にとって不可欠となっています。

今こそ一人一人が
できることを

GSアクションプラン2020」が発表されました。同プランでは、デジタルイノベーションを最大限に活用したビジネスの力によるSDGsの実現や、2020年7月からスタートした「SDGs未来都市」を中心としたSDGsを原動力とする地方創生、そしてSDGsの担い手である次世代や女性のエンパワメントなどを柱とし、取り組みを加速させるとしています。

未来を変えるために 今、私たちができること

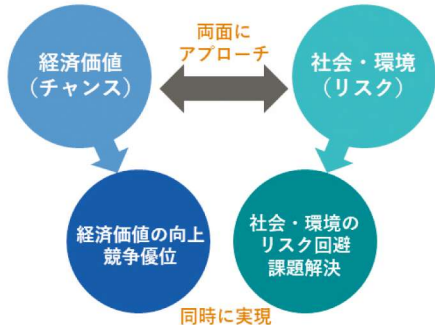
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



日本では、SDGsが採択された翌年の2016年に、総理を本部長とし、すべての国務大臣をメンバーに据えた「持続可能な開発目標推進本部会合」がスタート。2019年には、行動の10年に向けた「SD

G」の後継として、策定された国際目標です。MDGsは主に開発途上国の課題に対して先進国が支援を行い、多くの目標を達成した一方で、SDGsは、「誰一人取り残さない」をコンセプトに、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標で構成されているのが特徴です。近年、SDGsの取り組みは世界各地で進められていますが、国連は2020年からの10年をSDGs達成のための「行動の10年」とし、さらに取り組みのスピードアップと規模拡大を呼びかけています。

企業経営におけるSDGs



それに伴って投資家の間でも、Environment(環境)・Social(社会)・Governance(企業統治)の頭文字「ESG」に配慮した企業に投資する「ESG投資」が加速。SDGsを達成することで、短期的な収益だけでなく、中長期的な企業価値の向上に努める企業が、投資の機会を得る傾向が高まっています。

私たち消費者も、食料ロスやエネルギーの無駄を減らしたり、エコバックを使用するなど、直接SDGsにつながる行動に努めるのももちろん、SDGsに配慮した企業の商品を支持することで、取り組みを後押しすることが出来ます。今こそ、1人1人がSDGsに関心をもつことが大切です。



私たちは持続可能な開発目標SDGsを支援しています。

※50音順

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例について
お寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281